

ペア戦（２人１組の源平戦）のやり方および注意点

※札は、あらかじめ80枚に分けたものを使用します。

- 1 係の合図で、80枚の取り札を裏にして混ぜ、お互いに40枚（10枚を4束）つつ取ります。
- 2 40枚の札を、縦3段、幅1mぐらい（16～18枚くらい）の中に段をそろえてきれいに配置します。お互いの札の一番上（上段）の間は、5cmほど空け、各段の間は、1cmほど空けて並べます。札の向きは、文字が自分の方に見えるようにします。
- 3 暗記時間（10分間）が告げられますので、その間に札の位置を暗記します。
- 4 暗記時間が終わると、試合開始が告げられます。互いに札をし、そのあと読手（札を読み上げる人）に向かって札をします。
- 5 読手は、1番はじめに序歌（百人一首には含まれない歌）の上の句と下の句を読み、下の句をもう1度読んで1枚目の札の上の句を読みます。次からは前の札の下の方の句を読み、1秒おいて次の札の上の句までを読みます。
- 6 読み始めたら、出札の1字目が読まれるまで、音を出したり、手を出したりしてはいけません。自分の陣の上段の札より相手側に頭がでないようにして待ちます。手は空中にあってもいけません。畳に接した状態で自陣の下段よりも手前におきましょう。
- 7 札が読まれたら、その札を最初に触った人の取りになります。札は必ず片手で取って下さい。両手を使ってはいけません。また、途中で取る手を変えてもいけません。札はできるだけ、押さえるように取りましょう。競技かるたのように札を払うと元の位置に直すのに時間がかかり、試合進行が遅くなるので、控えましょう。
- 8 読まれた札をまだ取っていない場合には、必ず4人のうち誰かが手を挙げて知らせて下さい。
- 9 取った札は、裏にして、自分の取り手の反対側に揃えて置きます。
- 10 相手陣を取ったときには、自陣から、1枚選んで相手側に渡します。このとき札を送る人は、必ず相手が受け取って札を並べるまで、手を挙げて知らせてください。渡された札はどこに置いてもいいです。送り札は次の読みが始まるまでに送らないと、その後では、渡す権利がなくなります。
- 11 並んでいる札が乱れたら、両手できれいに並べましょう。
- 12 お手付きについて
 - （1）読まれた札（出札）のない陣の札に手をふれた場合はお手付きになり、相手から札を1枚送られます。（出札のある陣はどれをさわってもお手付きになりません）
 - （2）自陣の読まれた札を取って、相手の組がお手付きをしたときには、札を1枚送ります。
 - （3）相手陣の読まれた札を取って、相手の組がお手付きをしたときには、札を2枚送ります。
 - （4）相手陣の読まれた札を取って、お手付きをしたときには、札を送ることはできません。
 - （5）同じ組の2人がお手付きをしても送られる札は1枚です。
- 13 どちらかの陣の札がなくなったときにその組の勝ちとします。
- 14 試合が終わったら、終わりの札をします。お互いに札をしたら、読手にも札をします。審判がついたら、「お互い、審判、読手」の順で札をします。
- 15 試合が終わったら、それぞれの陣にある札の数を数えます。
- 16 会場全体の試合終了後、最後の札の下の方の句まで読まれたら、全員拍手をします。
- 17 札は、10枚ごとに札分けして、枚数が80枚あるか確認します。確認できたら、最後にお互いに札をします。
- 18 勝った組が勝敗を報告します。その時、それぞれの陣に残った札の枚数も報告します。
- 19 試合中に困ったことやどちらが取ったかわからない場合などには、審判に聞いてください。その際、審判には必ず従ってください。